

# 鷺宮高校 社会科FW・活動通信 Vol.43(2026. 2月)

## 社会科同好会編③④ 「シンポジウム(歴史教育者協議会)での活動報告」

2026年2月15日(日)、東京労働会館(大塚)で開催されたシンポジウム「いま学校でジェンダー平等・多文化共生社会をめざして」に、生徒5名+社会科教員2名が参加しました。

全体会は、鷺宮高校の教員を含めた5名の小中高の教員からの発言と、会場からの、金 竜太郎さん、ファン・ユーションさんの発言で構成されていました。ファンさんは今回、台湾のジェンダー平等教育に関して報告されましたが、「せたがや未来の平和館フィールドワーク」や3年社会探究「平和学入門出前講座」でお世話になったご縁があるため、昼休みには、昼食を取りながら交流し、台湾について教えていただきました。午後の分科会で、社会科同好会の主な活動について、5名がそれぞれ分担して報告しました。



参加した生徒の感想を紹介します。

- ◆今日のイベントを通して、社会科同好会でこれまで取り組んできた活動を改めて思い出した。個人個人の感想や考えに触れることで、自分にはなかった視点に気づくことができ、視野が広がった。教科書だけでは学べないことに触れて、自分たちの言葉で考えられる場が社会科同好会だと思う。これからもこの活動が続き、より多くの鷺高生が社会問題や平和について考えるきっかけになる場であってほしい。
- ◆金さんのお話を聞き、在留カードのことなど在日の外国人の方のことを全然知らないし、知る機会も今回のシンポジウムに参加しなければ無かっただろうと思い、学んでいきたいと感じました。お昼の時にファンさんとお話する機会があり、政治的なことなど台湾の人々の世代間での意見のギャップがあることが分かりました。18歳になり、選挙権を持つようになったことでこれから政治や社会問題に対して自分ごととして向き合えるような学びをしていきたいと感じました。
- ◆ファンさんと一緒に昼食をとった際の『台湾の高齢の方は若者より、昔の考え方に極端な人が多いと思う』(上手くまとめられず分かりにくくてすみません)という趣旨の発言が特に印象に残っている。日本でもそのような傾向が見られるように世代間のギャップというのは顕著なのだろうと思った。また私的に台湾では幼い頃から政治的な話に触れることも多いのかなと思っていたが、少なくともファンさんの年代は「歴史として学ぶ」程度であり、高校生くらいからより発言するようになるということが驚きだった。活動報告は、自分たちの活動と考え方を振り返る良い機会だったと思う。
- ◆分科会で発表する場を持って、改めてジャンさんとの交流会でもっと視野を広げていきたいと感じたことや、大学に入ってもこういった当事者やその国出身の方から話を聞く機会を大事にしていきたいなと感じました。今までは先生にそういった場を提供してもらっていたけれど、大学生になったら自分から輪に入り、平和に向けての活動を主体的にしたいと考えました。